

なみなみ通信

福岡県水産海洋技術センター情報誌

なみなみ通信は、センターと各研究所からの情報を、漁業者や県民の方に年4回のペースでお知らせする情報誌です。

VOL.56

発行 / 平成 25 年5月



種ガキの抑制作業（豊前海区）

調査情報

- ・ 海況情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ・ 平成 24 年度 有明海ノリ養殖経過と生産結果・・・・・・・・ 2
- ・ TAC 対象魚種の漁獲動向について・・・・・・・・・・・・・・ 3
- ・ 平成 24 年度 カキ養殖の概況について・・・・・・・・・・・・ 4

研究情報

- ・ 水産物の移動販売について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

なみなみニュース

- ・ 糸島漁協が地産地消優良活動表彰を受賞・・・・・・・・・・ 5
- ・ ふくおか「農と商工の自慢の逸品」
展示商談会に2漁協が参加・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

普及だより

- ・ 豊前海区青壮年協議会の
江口一弘さんが水産庁長官賞を受賞・・・・・・・・・・ 6
- ・ 福岡県有明海区研究連合会が福岡のりの品評会を開催・・・・ 6
- ・ 豊前海一粒かき販売促進キャンペーンを沖縄県で開催・・・・ 7

研究員紹介

- ・ 研究部 応用技術課 主任技師 熊谷 香・・・・・・・・・・・・ 7

- 人事異動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

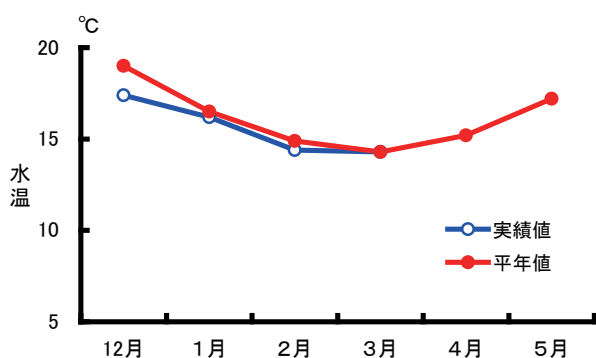
調査情報

海況情報

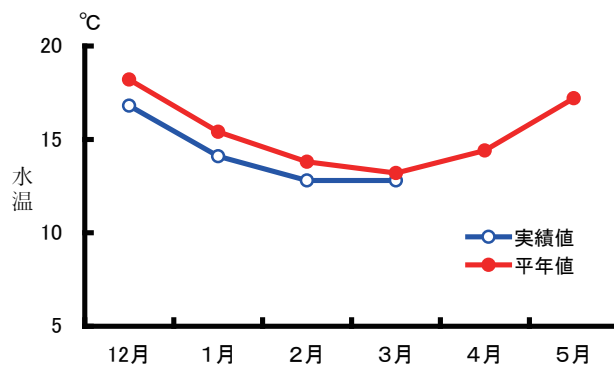
1～3月の表層水温は、筑前海の沖合域では、平年並みで推移しました。沿岸域では、1月はかなり低め、2月はやや低めで、3月は平年並みとなっています。

有明海では、1月はやや低めでしたが、2月は平年並みとなり、3月はやや高めとなっています。

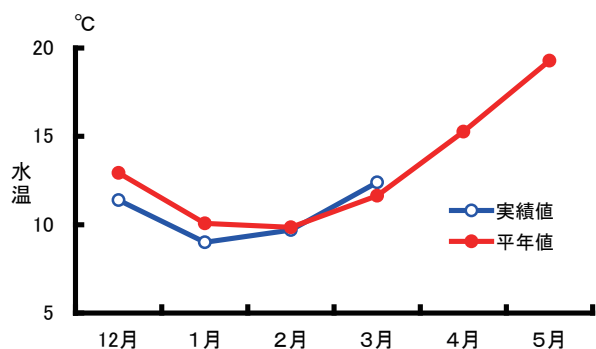
豊前海では、1月はやや低めでしたが、2月にやや高めとなり、3月は平年並みとなっています。



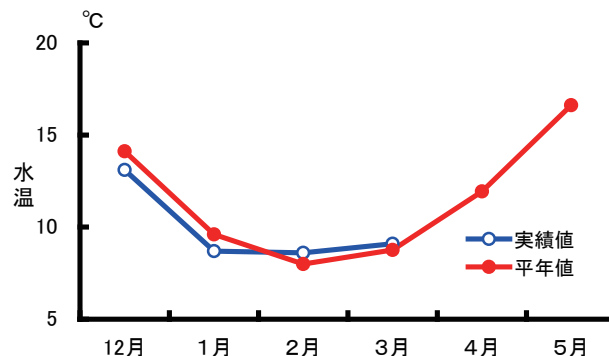
筑前海沖合域の表層水温



筑前海沿岸域の表層水温



有明海の表層水温



豊前海の表層水温

平成24年度 有明海ノリ養殖経過と生産結果

有明海では、昨年7月に豪雨災害に見舞われ、漁港施設や漁船などが損壊し、海や海岸には大量のゴミが流入するなど、被害の規模は相当のものでした。このため、県では国・市とともに漁業者と一体となって復旧にあたった結果、養殖は当初の予定通り始めることができました。養殖開始直前には、珪藻プランクトンの増殖により栄養塩が少ない状況でしたが、増殖はすぐに収まり、10月17日の降雨で栄養塩は十分な量に回復しました。その後は育苗、冷凍網入庫および秋芽網生産は順調に行われ、12月中旬に秋芽網生産が終了しました。次いで、冷凍網生産は12月23日から開始され、1月までは順調に生産が行われました。しかし、2月上旬から珪藻プランクトンの増殖によって栄養塩が減少したため、ノリの色落ちが発生し、この色落ちは漁期終了間近の3月下旬まで長期間継続しました。

24年度の生産結果は表のとおりです。

生産枚数は13.8億枚（前年比112%）、生産額は132億円（前年比109%）と前年度を上回り、平年並みの生産となりました。

24 年度 有明海養殖ノリの生産結果

	生産枚数(億枚)	生産金額(億円)	平均単価(円/枚)
平成24年度	13.8	131.7	9.54
昨年度	12.3	127.4	10.38
過去5年平均	13.8	132.8	9.63

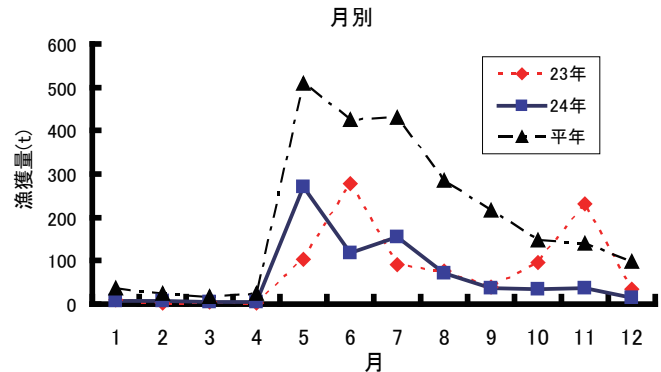
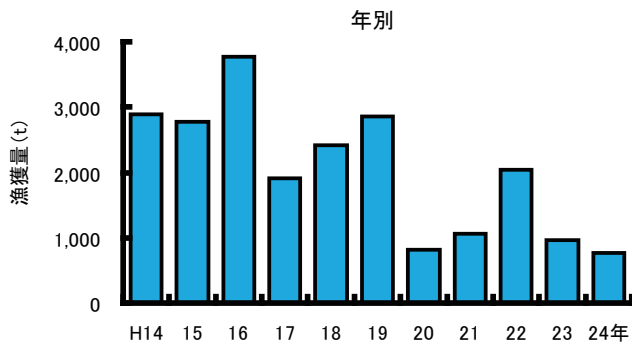
T A C対象魚種の漁獲動向について

T A C制度は「海洋生物資源の保存及び管理に関する法律」に基づき、対象魚種ごとの漁獲可能量(T A C)を定め、水産資源の適切な管理を行うものです。

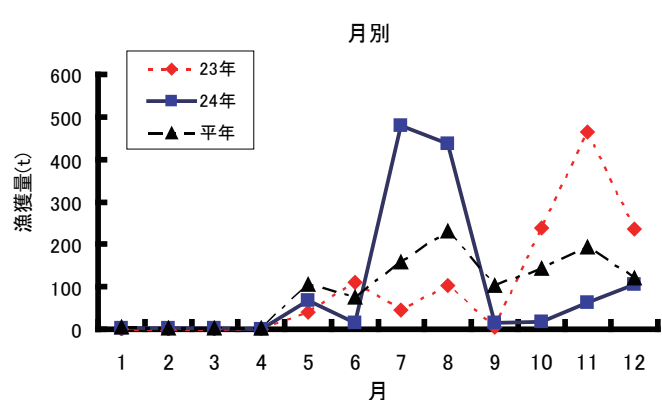
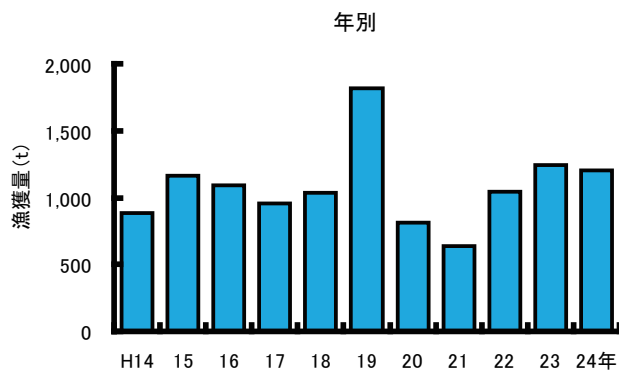
この制度の運用には、漁獲動向の把握が不可欠であり、国や都道府県などが連携し、漁獲状況を調査しています。

本県では、マアジ、サバ類（マサバ・ゴマサバ）など5種類がT A C対象魚種となっています。平成24年の本県沿岸漁業の漁獲量は、マアジが1,761トンで平年比49%、前年比79%、サバ類は1,207トンで平年比109%、前年比97%となっています。

マアジ



サバ類



主要魚種の漁獲動向（マアジ、サバ類）

（センター研究部）

平成 24 年度 カキ養殖の概況について

本県の養殖カキは、豊前海区と、筑前海区のうち糸島地区と福岡湾が主な産地となっています。
24 年度の各海区の生産状況は以下のとおりです。

【豊前海区】

カキ養殖には主に宮城県産のカキ種苗が用いられていますが、24 年度は震災後初めて出荷されたカキ種苗による養殖となりました。

通常カキ種苗は抑制（稚ガキに干出をかけ、強いカキを選別する作業）を行って筏に垂下しますが、被災地の抑制場が地盤沈下したため、昨年度は、豊前海の漁業者自らが初めて抑制作業を行いました。（表紙写真）

養殖概況としては、5 月中旬から 7 月下旬にかけて、クロダイによるカキの食害が発生し、特に南部地域では被害がひどく、一部のイカダではほぼ壊滅的な状況となりました。

しかしながら、付着数が平年より低下したことにより、秋期の減耗が例年より少なく、カキが餌となるプランクトンを十分に摂れたため、例年以上に身入りが良いカキが収穫されました。その結果、海区全体の生産量は、約 1,050 トンと例年の 7 割程度となる見込みです。

【筑前海区】

福岡湾は平年並みの生産でしたが、糸島地区では高水温の影響により秋季にへい死が続き、海区全体の生産量は前年の 6 割程度となる見込みです。

糸島地区では、収穫量の減少に伴い、カキ小屋を輪番で休業するなど、顧客への影響を最小限に止める取組が行われました。一方、糸島漁協や地元観光協会などが連携し、カキ小屋などを巡るバスツアーを企画するなど、新たな取組も進められています。

近年、食害による減耗や秋季のへい死などにより、養殖カキの生産が不安定となっており、県では、生産安定に向けた減耗防止対策に取り組んでいきます。

（豊前海研究所、センター研究部）

研究情報

水産物の移動販売について

県では、漁業者の経営安定や収益性向上を目的に、直接販売や 6 次産業化を推進しています。直接販売手法のひとつとして「水産物の移動販売」について、実際に筑前海区の 3 漁協が移動販売車を使って飯塚市等の内陸部の農産物直売所で試験販売を行いました。

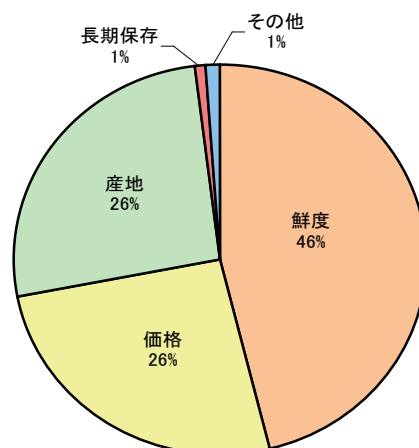
その結果、1 日 1 カ所あたり平均約 4 万円の売上額があり、販売カ所を増やすことで収益性が見込めるものと試算されました。

また、農産物直売所に来場する消費者を対象に水産物の意識調査を行った結果、「鮮度」、「産地」、「価格」を水産物購入の判断基準としていることが分かり、消費者に対し「鮮度」や「産地」等を積極的に P R することが必要と考えられました。

近年、他県の漁協や生産者が、大消費地である福岡市を P R や販売の拠点として移動販売を開始しており、県民が県産水産物を支持してくれる環境が脅かされています。本県漁業者は、他県の生産者より費用を掛けずに県内で P R や販売を行うことができることから、移動販売のご検討をお勧めします。



移動販売車での販売



水産物購入の際の判断基準

なみなみニュース

糸島漁協が地産地消優良活動表彰を受賞

農林水産省では、地産地消の取組を一層促進するため、「地産地消優良活動表彰」として全国各地の創意工夫のある様々な地産地消の取組・活動を募集し、厳正な審査を経て選定し、表彰しています。

今回、糸島漁協が食料産業局長賞を受賞し、3月21日に糸島漁協 山本組合長が授賞式に出席されました。

この表彰は、今回で7回目ですが、福岡県の団体が受賞したのは今回が初めてです。

糸島漁協では、直売所を展開するとともに、今や観光資源として定着したかき小屋を生産者とともに盛り上げ、さらに、JAや肥料会社と連携してカキ小屋から出るカキ殻を土壌改良剤として活用するなど、地域活性化の取組を進めています。

また、学校給食への魚のすり身や海藻など食材の提供、料理教室の開催など、こうした様々な取組が評価され今回の受賞となりました。

農林水産省で開催された授賞式
(後段、右から3人目が山本組合長)

ふくおか「農と商工の自慢の逸品」展示商談会に2漁協が参加

県では、6次産業化や農商工連携による地域の取組を推進しており、25年1月に、福岡県内の農林漁業者や商工事業者の自慢の逸品を一堂に会した「商談会」を開催しました。漁協では、糸島漁協と新宮相島漁協が参加しました。

商談会では、両漁協とも百貨店のバイヤーなどに対し、自慢の商品を熱心にアピールしていました。



商談会での各漁協の展示ブース（左：糸島漁協、右：新宮相島漁協）

普及だより

豊前海区青壮年協議会の江口一弘さんが水産庁長官賞を受賞

平成 25 年 3 月に東京都で第 18 回全国青年・女性漁業者交流大会（J F 全漁連主催）が開催されました。

福岡県からは、豊前海区漁協青壮年協議会の江口一弘さん（豊前海北部漁協恒見支所）が「すべてのヒントはお客様からー「豊前海一粒かき」販売促進の取り組みー」というテーマで発表を行い、水産庁長官賞を受賞しました。

発表では、「豊前海区かき養殖研究会」がこれまで行ってきた、ブランドのネーミングや規格の統一、福岡市天神等で行ったイベント活動により、単価の向上や全国的な販路開拓につながったことや、最近オープンしたカキ小屋「恒見焼き喰い処」の取組について報告しました。

講評では、消費者との会話の中で得たヒントをもとに、漁業者自らが積極的に対策を講じ、結果的に「豊前海一粒かき」を県内有数のブランドに成長させるとともに、さらには収益の増加にもつながったことが多くの漁業者が見習うべきものとして高く評価されました。



表彰式（左から 4 番目が江口一弘さん）

福岡県有明海区研究連合会が福岡のりの品評会を開催

若手ノリ生産者で構成されている福岡県有明海区研究連合会が、3 月 28 日に福岡のりブランド推進品評会を開催しました。品評会は、生産者が丹精を込めてつくったノリを一堂に集め、優秀なノリを表彰することで、品質に対する生産者の意識を高めることを目的としています。

審査は、各地区から選りすぐられたノリを参加者が色や味などを評価し、最も良いと思うノリを投票するというものです。

今年は、有明漁協の堤健太郎さんが 1 位となり、福岡県知事賞を受賞しました。



品評会で出展されたノリを審査する参加者

豊前海一粒かき販売促進キャンペーンを沖縄県で開催

豊前海区のかき養殖業者でつくる「豊前海区かき養殖研究会」では、豊前海一粒かきの販売促進活動を積極的に行っています。3月9、10日には、沖縄県豊見城市豊崎の「JA おきなわ食彩館 菜々色畑」で「豊前海一粒かき販売促進キャンペーン」を開催しました。

沖縄でのキャンペーンは平成20年に始まって以来、今年で5回目となり、毎年沖縄県内外を問わず多くの来場者が訪れています。

本年度は、昨年の2倍の1.2tのかきを用意しましたが、好天に恵まれたこともあり両日とも完売し、特に2日目は販売開始前から行列ができるなど、大盛況となりました。



豊前海一粒かき販売促進キャンペーン

研究員紹介

研究部 応用技術課 主任技師 熊谷 香

こんにちは、今年の4月から水産海洋技術センターに来ました熊谷香です。

3月までは県庁の水産振興課におりまして、ノリ・カキなどの養殖業振興と県産水産物全般の広報、販売促進、ブランド化などを担当していたので、皆様にはイベントの際にハッピー姿でお目にかかることも多かったかと思います。

その前は有明海研究所でノリ養殖指導をしており、そしてこれからは筑前海のノリ担当となりました。気づけばノリ歴も10年目かあと感慨深く感じています。（と書きながら、鏡を見るとノリの破片がまた口の端に…。職場の定番おやつは焼きノリです）

お仕事柄もあって地産地消好みなので、趣味は地魚や地元の野菜・果物満載の料理と地酒を楽しむ事です。休日は酒蔵めぐりや畑見学に出歩く、つまり只の食いしん坊です。

これからは、加工品の試作や魚病診断という初めてのお仕事に携われるため、まずは業務に早く慣れて、いずれは消費者の方々にも愛されるような加工品づくりを通して微力ながらも販売促進のお役に立ちたいと思っていますので、どうぞ宜しくお願いします。

県全域の水産加工品のアイデアを随時募集中です。是非ご一報ください♪



人事異動

(平成25年4月1日付け)

○水産海洋技術センター						
新 所 属		職 名 氏 名		旧 所 属		
企画管理部 研究部	企画情報課 漁業経営課	所 長	半田 亮司	水産局長		
		研究員	篠原 直哉	内水面研究所		
		課 長	中原 秀人	農業総合試験場		
		参事補佐	濱田 豊市	豊前海研究所（浅海増殖課長）		
	資源環境課	技師	森 慎也	新規採用		
		課 長	江藤 拓也	水産海洋技術センター（海洋環境課長）		
		研究員	恵崎 摂	漁業管理課		
		資源環境課（げんかい）	げんかい船長	高村 峰登	豊前海研究所（ぶぜん船長）	
	資源環境課（つくし） 応用技術課	技術主査	小林 喜利	有明海研究所		
		技師	松下 渥史	漁業管理課		
		技師	福森 雄三	新規採用		
		技術主査	藤内 秀明	豊前海研究所		
		課 長	安藤 朗彦	水産海洋技術センター（漁業資源課長）		
		主任技師	熊谷 香	水産振興課		
○有明海研究所						
新 所 属		職 名 氏 名		旧 所 属		
	のり養殖課	課 長	秋元 聡	有明海研究所（資源増殖課長）		
		参事補佐	小谷 正幸	水資源対策課		
		事務主査	濱崎 國子	南筑後県土整備事務所		
	のり養殖課（ありあけ）	企画主査	堂本 博司	豊前海研究所		
		課 長	宮本 博和	漁業管理課		
	資源増殖課	研究員	的場 達人	水産振興課		
	○豊前海研究所					
新 所 属		職 名 氏 名		旧 所 属		
	漁業資源課	所 長	西川 仁	内水面研究所（所長）		
		企画主査	坂井 忠成	福岡県立大学		
		研究員	宮内 正幸	水産海洋技術センター		
	漁業資源課（ぶぜん）	ぶぜん船長	坂見 龍彦	漁業管理課		
		企画主査	榎田 若久	水産海洋技術センター		
	浅海増殖課	技術主査	松村 鉄之	水産海洋技術センター		
		課 長	伊藤 輝昭	豊前海研究所		
		技術主査	寺井 千尋	有明海研究所		
	○内水面研究所					
	新 所 属		職 名 氏 名		旧 所 属	
		所 長	太刀山 透	漁業管理課		
		主任技師	松本 昌大	有明海研究所		
		技能員	池田 佳嗣	朝倉県土整備事務所		
△転出						
新 所 属		職 名 氏 名		旧 所 属		
農林水産部水産局	漁業管理課	技術主査	福澄 賢二	水産海洋技術センター		
		技術主査	江崎 恭志	水産海洋技術センター		
		技師	小池 美紀	水産海洋技術センター		
	水産振興課	課 長	石田 祐幸	豊前海研究所（所長）		
		専門技術指導員甲	福永 剛	有明海研究所（のり養殖課長）		
		主任技師	石谷 誠	豊前海研究所		
		主任技師	梨木 大輔	水産海洋技術センター		
		主任主事	佐藤 素洋	豊前海研究所		
	農林水産部	農村森林整備課	主任主事	佐藤 素洋	豊前海研究所	
	□退職（平成25年3月31日付け）					
旧 所 属		職 名		氏 名		
水産海洋技術センター		所長		富重 信一		
水産海洋技術センター		げんかい船長		榎田 初喜		
有明海研究所		企画主査		松本紀美子		
有明海研究所		主任技能員		荒巻 明満		

<編集発行> 福岡県水産海洋技術センター企画管理部企画情報課
〒819-0165 福岡市西区今津1141番地1
TEL 092-806-5251 FAX 092-806-5223
センターホームページ <http://www.sea-net.pref.fukuoka.jp/>
携帯電話対応 <http://www.sea-net.pref.fukuoka.jp/mobile/>